

100年前の青春

宇野千代と湯ヶ島文士村

伊豆市資料館
6/26~12/20
井上靖文学館
9/27~3/9



伊豆市資料館 ×
長泉町井上靖文学館
連携企画

関連企画展開催・記念しおり配布
両館で異なるデザインのしおりがもらえます

2026

6/26 (金) ~ 12/20 (日)

伊豆市資料館 特別展示室

休館日：木曜日

開館時間：9：00~16：00 (最終入館 15:45) 入館料：大人 210 円 小中高生 100 円

協力：一般社団法人 伊豆文士村、株式会社 宇野千代、世田谷文学館、湯本館



宇野千代 (中央公論社にて) 昭和 7 年 (1932) 頃 世田谷文学館提供



伊豆市資料館
IZU LOCAL HISTORY MUSEUM

〒410-2502 静岡県伊豆市上白岩 425-1 TEL：0558-83-1859

【アクセス】車：国道 136 号修善寺横瀬交差点より伊東方面へ約 10 分。

電車・バス：伊豆箱根鉄道「修善寺」駅よりバス約 10 分 (伊東方面「白岩」バス停下車)。



100年前の青春 宇野千代と湯ヶ島文士村

今からおよそ100年前、大正から昭和初期にかけて、天城山の麓にある静かな山村であった湯ヶ島（現・伊豆市天城湯ヶ島地区）には東京から若手の文学者たちが集い、「湯ヶ島文士村」と呼びうるような状況が生まれていました。その中心にいたのは、川端康成と梶井基次郎です。川端や梶井の招きにより、尾崎士郎・宇野千代夫妻をはじめ、萩原朔太郎、三好達次ら多くの作家が滞在しました。彼らは長く逗留して湯ヶ島の人々と交流を深め、その体験を小説や随筆として残しました。

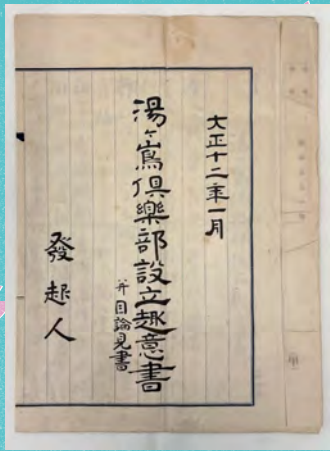
今年は宇野千代の没後30年にあたります。本展では、湯ヶ島文士村の紅一点・宇野千代を中心に、湯ヶ島文士村の歴史と青春の一幕を紹介します。



湯ヶ島にて 昭和2年（1927） 世田谷文学館提供
右から1番目が三好達治、2番目が宇野千代。

大正十五年頃から昭和初年にかけて、私の文学的生活のある時期が湯ヶ島という土地によって、くつきりと背景づけられている。

尾崎士郎「湯ヶ島のこと」より

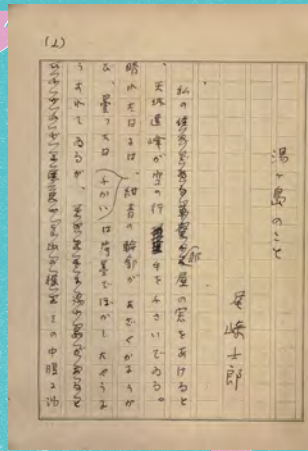


「湯ヶ島俱樂部設立趣意書并日論見書」
大正12年（1923）1月 伊豆近代文学博物館蔵



天城俱樂部内部 昭和後期頃
伊豆近代文学博物館蔵

川端や尾崎士郎・宇野千代夫妻も通った芝居小屋「天城俱樂部」の設立趣意書。趣意書の段階では「湯ヶ島俱樂部」となっています。



尾崎士郎「湯ヶ島のこと」直筆原稿
昭和20年代（1945～1954） 伊豆近代文学博物館蔵

伊豆市資料館常設展

常設展では、伊豆市の郷土に関する資料を展示しています。



豆州修善寺温泉場全図（明治40年）
修善寺温泉場を描いた地図です。鉄道の開通にともない、明治～大正にかけてこのような観光地図が数多く発行されました。



大型有孔虫レビドサイクリナの化石
伊豆半島がかつて南の海にあったことを示す貴重な資料です。この化石が産出した露頭は「下白岩のレビドサイクリナ化石産地」として静岡県指定天然記念物に指定されています。

アクセス



車：国道136号修善寺横瀬交差点より伊東方面へ約10分。
電車・バス：伊豆箱根鉄道「修善寺」駅よりバス約10分（伊東方面「白岩」バス停下車）。

関連企画展

会期中、ご来館いただいた方に記念しおりプレゼント！（伊豆市資料館でもらえるしおりとはデザインが異なります）

ことばの交差点

川端康成、梶井基次郎、宇野千代、井上靖

2026 2027
9/27(日)～3/9(火)

長泉町井上靖文学館

〒411-0931 静岡県駿東郡長泉町東野 515-149

